

在外研究に備えて 何を準備する？

工学部助教 森田慶子

1. はじめに

筆者は2013年8月末～2014年8月末まで在外研究員として米国ネバダ州リノに滞在した。ここでは海外で安全で快適に過ごすために、米国での経験から準備しておいた方が良いと思われる項目をいくつか紹介したい。

2. 押さえておきたい項目

2.1 在外研究を開始する時期

大学での在外研究を予定している場合には、まず**セメスター開始の時期を確認**することをお勧めする。米国では、前期は8月第4週頃、後期は1月第4週頃から始まることが多い。現地へ出向く時期は、住む場所を決める際にも重要なポイントとなる。大学敷地内、あるいは近接するアパートや宿舎はセメスター開始2～3週間前には埋まってしまう。徒歩で大学に通える距離に住めば自家用車を所有する必要がない。買い物に出かける際には、まとめ買いを念頭に置いてレンタカーを利用するのが安くて便利である。日本でよく知られるレンタカーを利用する手もあるが、米国には他にも安くてサービスの行き届いたレンタカー会社がいくつもあるので現地で確認するのが良いと思う。

2.2 住む場所を決める

大学の宿舎に入ることができれば、いろいろな面で便利である。アパートを探す必要が出てきた場合には、**研究先の誰かに情報収集の手伝いをお願い**することができれば理想的だと思う。現地の情報を考慮した上で、安全性と利便性、経済性を考慮した上でスムーズに事が運ぶ。

賃貸アパートには家具付きと家具なしがある。家具なしのアパートであっても洗濯機、乾燥機、冷蔵庫が常設されているものが多かった。家具なしのアパートに必要な家具を購入して設置するのも大変な

作業である。家具レンタルを活用すれば、設置から退去時の片付けまで業者にお任せできるので、手間がかからないことも知っておくと便利である。

2.3 日本から持参したいもの

米国にかかわらず、海外へ行く場合には**日本製の食品用ラップフィルム**の持参をおすすめする。日本人の多く住む大都市であっても、おそらく日本製の質の良いラップフィルムの入手は困難であると思う。ましてや、ほどほど田舎のリノでは皆無であった。米国の食品用ラップは非常に心許ない。電子レンジで使用しても大丈夫だろうかという強度のものや、異様なにおいのついたものまである。これだけは日頃使っているものを持参するのが賢明だろうと思う。帰国した後に、ドイツに移り住んだ知人からこのアドバイスを受けたのだが遅かった。

2.4 米国のドメイン名を持つ e-mail

.com などの**米国のドメイン名を持つ e-mail アドレス**を1つ準備しておくとも便利である。アパート周辺や地域の防災・防犯情報などの受け取りや、次に示す銀行口座開設時に使うことができる。

2.5 銀行口座を開設する

現地の銀行口座を開設するといろいろな面で便利である。銀行口座開設によって、小切手や電子小切手 (e-check) が使えるようになったり、手数料がほとんどかからずに換金できたり、現地のクレジットカードを作ることができたりするので利便性が上がる。円建てのクレジットカードで十分と思われるかもしれない。しかし、ドルを円に両替する手続きで事務手数料が上乗せされてしまうこと、を知っておきたい。また、家賃などの支払いにインターネットを介した e-check 支払いを利用すると手数料も安い。クレジットカードで払う場合には振り込みのたびに高額な手数料が必要であった。

銀行口座を開設する際には、大学の近くにある支店で手続を行うと対応が早い。留学生が口座の開設に訪れることが多いため、対応になれている様である。必要な書類は銀行によって異なるが、パスポートなどの身分証明書、滞在先での住所およびそれを証明する契約書など、留学 VISA 取得関係の書類一式などを持参する。また、セキュリティ確保のためにインターネット活用が盛んな米国では、各種通知を受け取るために e-mail アドレスの登録が求められる。先に述べた米国のドメイン名の e-mail が有効である。福岡大学の e-mail は日本名ドメインのため登録ができなかった。

また、Bank of America は、米国での住所が確定していれば、渡米前に日本で口座開設の手続を行うことができる。おそらく他の銀行でも同じだろう。

銀行口座には、Checking Account と Saving Account がある。日本でいう当座預金と普通預金に相当する。口座の利用は、残金によって手数料がかかることもあるので、契約条件を確認しておく必要がある。

2.6 米国でクレジットカードを作る

米国でクレジットカードを作るためには、米国の銀行口座と米国のクレジット・ヒストリー（クレジットカードの返済履歴の蓄積）が必要である。信用情報機関に集められたクレジット・スコアに基づいて、個人の信用力が数値化されているのである。米国のクレジット・ヒストリーを持たない日本人がクレジットカードを作る方法は2つある。

- (1) セキュアド・クレジット・カード (Secured Credit Card) と呼ばれるカードを作って、地道にクレジット・ヒストリーをつくる。1年くらいの滞在ではクレジット・スコアは十分に蓄積されないかもしれない
- (2) 日本の航空会社が渡米する日本人を対象に発行するクレジットカードを作る。渡米90日くらい前から日本で申し込むことができる

筆者は渡米してから銀行口座を作り、(2)の方法で米国のクレジットカードを作成した。ソーシャルセキュリティナンバーがなくても大丈夫である。米国のクレジットカード利用は様々なメリットがある。レンタカーの支払いの際に使用すれば、任意保険の一部が条件付きで自動的に付与されるため重宝した。

2.7 現地通貨の持参

どこでもクレジットカード決済ができると思われがちな米国でも、意外と現金は必要であった。

日本円を持参すると、換金に手間がかかるし為替レートが非常に悪い。また、換金できる場所を探すのはかなりの苦勞を伴い、見つけても換金を拒否されることもある。日本で換金して、現金で用意する方が簡単である。しかし、安全面から考えて、大金を持参するのは望ましくないと思う。

留学にかかわる情報記事にトラベラーズチェックと現地通貨の持参を勧めるものもあるが、トラベラーズチェックは使い勝手が良くない。場所によっては換金に高い手数料がかかったり、取り扱い拒否されたりすることが多かった。現地の銀行口座を持っていれば、口座入金という形で換金はできた。

筆者は、現金を準備するために日本でドル建てプリペイド式デビットカードを用意した。必要な金額だけ入金しておき、クレジットカードが使える場所では即時決済を行うのである。このカードは、発行クレジットカード会社に対応した ATM で現金の引き出しもできる。ただし、機械によっては手数料を取られる場合もあるため、注意が必要である。日本の会社のプリペイド式デビットカードであれば、インターネットバンキング経由で日本の銀行口座からデビットカードに入金ができる。

2.8 インターネットバンキング経由振込みの注意点

生活費の支払いは、基本的にドル建てで行った。クレジットカードを使うこともあったが、現地の銀行口座とプリペイド式デビットカードを利用することの方が多かった。単身で渡米した筆者は、米国の銀行口座への振り込みを日本の家族に頼んだ。

現在は、セキュリティへの対応が厳しくなっている。インターネットバンキング経由で日本の口座から海外送金を行う予定があるのなら、日本の銀行窓口で予め海外送金のための手続が必要である。

3. 最後に

思いつくままに準備しておきたい項目を挙げたため、十分な内容を紹介できていないかもしれない。備えあれば憂い無しではあるが、失敗も良い経験のひとつだと思っている。ぜひ様々な研究者に海外での生活を体験してもらいたいと思っている。